



- 図書一覧
- 書籍紹介
- 読者投稿欄
- プロフィール一覧
- 自己プロフィール
- 掲示板

エレファントム

著者名	ライアル・ワトソン	発行年	2009年
出版社名	木楽舎	ページ数	345ページ
値段	1,800円	ISBN	4-863240155
コメント	スピリチュアル、なんて聞くと、マユツパって思ってしまうのだけれど。282ページ、陸で最大の生き物と海で最大の生き物が超低周波で会話する光景が焼き付きました。象。この滅び行く崇高な生き物を全身全霊で愛し抜いた男の、あとの世代に託されたたいせつな遺言。		

読者投稿欄

ペンネーム お勧め度	コメント			
	読んだ場所	読んだページ数（時間）	立ち読みポイント	投稿時間
くらしく ☆☆	何の本かわからぬままに手を取り、象の群れの暮らしや能力についてなのかなあ、と読み進めると何やら子供たちがキャンプを始めた。そういう原始的な生活に全く興味の無い自分は耐えながら10ページほど読み進め、いよいよ本を閉じました。			
	1-31	31P (30分)		2010/02/14 21:59:55
あ、あめふと2号 ☆☆	巨大な体ながら物音一つさせずに現れるあたりから、ゾウはエレファントムと呼ばれているのかな？ただエレファントムとは消えていってしまうという事も含んでいるのかも。あまり科学的ではない感じです。			
	1-89	89P (90分)		2010/02/14 15:09:54
TD ☆☆☆	子供だけの自給自足の生活には憧れた。像は確かに他の動物で例えることができないなと思った。			
	1-45	45P (30分)	1-45	2010/02/13 21:59:59
まじ ☆☆	実体験から感じた象の神秘性について読者に必死にというかノリノリに訴えているが、筆者の言いたいことを僕には理解できないだろうというのが本音です。でも実際に象とふれあい、象の歴史について深く知ることによってこの本の真の意味を汲み取ることができるかもしれません。象信者にはおススメ。			
	90-133	44P (40分)		2010/01/16 20:31:56

ムーディーかまやつ
☆☆

福岡伸一はこの訳書と文体が似ているけれど、ワトソン博士に影響受けちゃってるんでしょうか…
こんな本まで訳しちゃって…
というわけでライアル・ワトソンの本ですが、この人「と学会」で山本弘が取り上げちゃった人なので、内容は推して知るべし、です。
迂遠な文章構造で神秘の世界に読み手を持っていこうとしますが、残念ながら濫読を目的とした人間にとっては論旨のはっきりしない文章に成り下がっており、通用しません。没入する覚悟がないと楽しめないのでしょう。
あるいは読書少年・少女だった人は、ああこんなの読んでたなとノスタルジーに浸れるやもしれませんが、冒険小説の劣化コピーとでも言えてしまう本書は、やはり読む気が失せてきます…

副題の「象はなぜ遠い記憶を語るのか」は「筆者はなぜ…」と読み替えるのが良いでしょう。凡人に相手にされなかった天才は、ただ過去の神秘を語るしかすべが無かったのです。孤独な象と、孤独な天才と、種の終わりを目前に控えた生き残り同士で、超低周波の声で語り合っている。そこは、ちっぽけな大学生のいるべきところではありませんでした。僕はあくびをこらえ、彼らに背を向けます。

1-184,282-286.346-360	204P (120分)	54-	2009/10/06 22:16:37
-----------------------	-------------	-----	---------------------



図書一覧

書籍紹介

読者投稿欄

プロフィール
覧

自己プロフィール

掲示板

10万の世界経済史上・下

著者名	グレゴリー・クラーク	発行年	2009年
出版社名	日経BP社	ページ数	574ページ
値段	2,400円	ISBN	4-822247416
コメント	人類は進化し続けてる。どこかで無邪気に、そう信じていた。 マルサスの罠にはまった大停滞時代の説明で、その無邪気が粉々に打ち碎かれる。壮大なテーマが野心的・刺激的で、そのぶんアツなっかしい。信憑性の高いイギリス統計部分と、見るもあやういアジア部分を、じょうずに読み分けられれば、つきあって損はない、はず。		

読者投稿欄

ペンネーム お勧め度	コメント			
	読んだ場所	読んだページ数 (時間)	立ち読みポイント	投稿時間
blue ☆☆☆	産業革命以前のマルサスの経済では、人口増加がかえって経済成長の停滞につながるという一見すると衝撃的だ。どうしてこの経済から抜け出せたのか、資本と労働力の相関性、総じて効率性のインセンティブが強かったことを実証的に示してはいるものの、イギリスの富裕層の生殖面での優位性がおおきかったことで文化的、遺伝的な面でも経済的に成功した人の価値観が広まったのは否めない。マルサスの社会的淘汰の圧力を考えると、単純に人間が知的な人生を歩んでいるのかと感動したいところではある。ただ、人間みな幸せを願うはずだが、全体としては所得が増えても幸福度がさほど変わってないところを見ると、われわれは何をやって来たんだろうかと少々虚無感に浸ってしまう。著者が最後に示唆してくれたように、公衆芸術や世界での科学研究など共有財に価値を見いだせるとしたらまだ幸福度は維持できるのかもしれない。			
	上1-307,下1-287	594P (1000分)		2009/10/09 01:22:06

[TOPへ](#)



- 図書一覧
- 書籍紹介
- 読者投稿欄
- プロフィール一覧
- 自己プロフィール
- 掲示板

マチュピチュー天空の聖殿

著者名	高野 潤	発行年	2009年
出版社名	中公新書	ページ数	192ページ
値段	1,000円	ISBN	4-121020123
コメント	天空の城？ 天空の花嫁？ まあ、似たようなもん。 遺されたのは石組の遺構だけ。どうして宝物は埋まってないの？ 発掘された173体の遺骨のうち約150体は女性。彼女たちは神に仕えていたの？ わからないことだらけなので、文字をいくら連ねても答えは出ません。 それよりも、このすばらしい写真に導かれて、しばしの天空散歩をどうぞ。		

読者投稿欄

ペンネーム お勧め度	コメント			
	読んだ場所	読んだページ数（時間）	立ち読みポイント	投稿時間
ten ☆☆☆	写真を眺めるだけで楽しいですね。こういう風景が実際に存在するんだということを知るにつけて、行ってみたいって仕方がありません。しぬまでに一度くらいは！			
	写真のページ	50P (20分)	写真！写真！	2010/02/15 05:15:19
うろくた ☆☆	注 10分程度しか読んでません 写真がちっちゃい・・・。 空中庭園と称されるマチュピチュ。 人生で一度は訪れたいと思っています。 しかしやっぱり新書で写真を見るものではないなあと思う・・・。			
	写真のあるページ	40P (10分)	写真	2010/02/15 02:18:13
名無し ☆☆☆☆	マチュピチュについての筆者の見解はともかく、写真がきれい。海外旅行…特に遺跡巡りをいつかはしてみたいと思っていたから写真を眺めるのはすごく楽しかった。マチュピチュについてもうちょっと基礎知識があったら、筆者の考えとかのおもしろさがもっと分かる気がした。			
	1-192	192P (120分)	写真	2010/02/04 03:20:14
アメフト4号 ☆☆☆☆	海外旅行してみたいところの一つにマチュピチュ遺跡がある。 なぜと聞かれても特に理由はない。名前にひかれているだけなのかもしれない。写真だけをながめただけだが満足している。いつか実際に行くときに内容を読んで勉強しようと思う。			
	写真のところ	50P (20分)		2010/01/18 02:48:14

黒鳥 ☆☆☆	インカ帝国と言えば一度は耳にしたことがあるし、「空中庭園」と聞けばピンとくる人多いはず。しかし、詳しいことは知らない人が多いのではないだろうか。この本では語りは過去を、そして写真は現在を写しているの、ガイドとともにマチュピチュを歩いているような感覚を味わうことができると思う。			
	写真+6章	83P (20分)	6章	2010/01/15 20:33:13
びよ彦 ☆☆☆	文中にてでくる地名が似たようなものばかりで混乱する。冒頭の地図で位置を確認することで手一杯で、肝心の内容はほとんど頭に入らず挫折した。写真をパラパラ見てマチュピチュの雰囲気だけでもつかめれば良いと思う。			
	1-70	70P (120分)		2010/01/12 15:20:17
Caporal ☆☆	絵はとてもきれいだったが文章がなかなか読み進められなかったのでこのおすすめ度とした。中南米は一度も行ったことないのでマチュピチュは一生に一回は行ってみたい。できれば大学のうちに！			
	P1-39	39P (13分)		2010/01/05 10:51:34
フィクサー ☆☆☆☆	はじめ、文章も読んだのですが、なんだか面白くなって進まなかったの、写真のところだけみしました。もともとマチュピチュの写真だけが目当てだったので、悔いはまったくないです。マチュピチュにいききたい気持ちがより強くなります。			
	写真のところ	50P (20分)	写真のところだけ	2010/01/02 05:21:46
だいすけもん ☆☆☆	活字は全無視で天空散歩してきた！マチュピチュの文化や歴史には興味もてないので、これが正解！？			
	写真のみ	50P (30分)		2009/12/15 10:04:07
@ ☆☆☆☆	きれいな写真を楽しませてもらいました！たまにはそんな読み方もいいのではないかと…虹や夕焼けが本当にきれい！一度行ってみたいです。			
	写真のとこを…	50P (15分)		2009/11/17 11:59:37
あ、あめふと2号 ☆☆☆☆	世界遺産マチュピチュを写真で感じることができ、マチュピチュへの思いが強くなった。一度マチュピチュにいてみてマチュピチュの空気を吸ってみたいと思わせられるような本。			
	1-192	192P (60分)		2009/10/28 09:59:49
hana ☆☆☆☆	著者が写真家であるということもあり、写真にかなりの存在感があります。とってもきれいです。文章のほうは、聞き慣れない固有名詞が多く並んでいるので、多少読みづらいかもしれません。写真の解説を読むつもりで、興味ある部分をちょこちょこ、でも十分だと思います。ただ、無理にでも読み進めていくと、思わぬおもしろい情報が転がっていたりして新鮮でした。第四章(101-118)は、生活のようすをテーマにした章で、比較的読みやすく、豆知識的な要素もあるので、ちょっと読んでみるとおもしろいかなと思います。			
	全部	192P (80分)	写真,101-118	2009/10/26 07:52:15
アメフト3号 ☆☆☆☆	天空の聖殿マチュピチュのことをよく知ることができた。インカ文明の発端から、生活の様子、儀式の様子、また征服者のスペイン人が攻めてきてからのマチュピチュの様子を、写真とともに追うことができてとても面白い1冊だった。写真が多いのもまた良い。			

	全部	192P (60分)	特になし	2009/10/19 23:00:53
--	----	------------	------	---------------------

ざわ ☆☆☆	読んだページはほとんどありません。 マチュピチュについての知識を持てば、一層、魅力を感じるだろうと思いましたが、実際、やっぱり、写真で十分でした。 素敵な写真を眺め、より一層、マチュピチュに対する思いが強くなりました。			
	1-20,101-118	38P (60分)		2009/10/19 00:28:04

[TOP](#) 



- 図書一覧
- 書籍紹介
- 読者投稿欄
- プロフィール一覧
- 自己プロフィール
- 掲示板

ローマ人の物語 ハンニバル戦記 上・中・下

著者名	塩野七生	発行年	1993年
出版社名	新潮文庫	ページ数	581ページ
値段	1,200円	ISBN	978-4101181530
コメント	カンネからザマへ。戦術の天才ハンニバルが、ついにその牙を折られる時が来る。あれほどに鮮やかな包囲全滅作戦をあまた成功させてきた男が、まさにその同じ技を敵のスキピオにかけられて。 「ハンニバルの不幸は、優れた弟子が敵方に出てしまったことであつた」（下巻83ページ） ドラマティックな記述は一行もない。なのに、男たちの覇気と無念が、ありありと迫る。加えて、政治の要諦についての、本質を衝いた洞察。おじさんたちの愛読書ナンバーワンであるのもうなずける。ただ、そこは社会工学生たるもの、批判的に読まないと（蛇足ながら、この批判的スタンスは、同じくおじさんたちの愛読書である司馬遼太郎先生に対する時も必要）。 紀元前。ほんとにほんとに遠い昔の昔の象部隊のとどろきに思い馳せつつ。		

読者投稿欄

ペンネーム お勧め度	コメント			
	読んだ場所	読んだページ数（時間）	立ち読みポイント	投稿時間
TD ☆☆	戦記物は苦手だ。特に外国のものは人名が頭に入ってこないからどこで誰が何をしたのかつかめない。 ローマが強国へのし上がっていく段階の話で、今も昔も身分でなく実力でのし上がった人間が国や組織を成功へ導いていくのだなと思った。			
	上 3 1-34	33P (30分)	1-34	2010/02/13 22:47:25
びよ彦 ☆☆☆☆☆	ハンニバルの戦術も勿論すごいと思うけど、それ以上にローマの団結力や忍耐力に驚いた。たとえスキピオがいなかったとしてもローマは負けなかったんじゃないかとさえ思う。			
	中 1-153	153P (120分)		2010/01/20 08:26:38
アルフ ☆☆☆☆☆	紀元前にローマ人はこんなことをやってたかと思うとほんとと感心します。 歴史の背景とストーリー部分がうまく配分されていておもしろい。			
	上巻	140P (70分)	21-88	2010/01/19 01:32:28
まじ ☆☆☆☆☆	歴史は常に思いもよらない展開を繰り広げている。 それが歴史の丁寧な叙述によって教科書なんかより比べものにならないくらいよく分かる。それでいて読みやすいのは、作者塩野七生さんの実力によるものだろう。 海を知るカルタゴ軍と海を知らないローマ軍の戦いは始まった。 世はまさに大海賊時代！！			



- 図書一覧
- 書籍紹介
- 読者投稿欄
- プロフィール一覧
- 自己プロフィール
- 掲示板

決闘裁判 世界を変えた法廷スキャンダル

著者名	エリック・ジェイガー	発行年	2007年
出版社名	早川書房	ページ数	277ページ
値段	2,100円	ISBN	978-4152088734
コメント	1386年フランス。そんな遠いできごとなのに、決闘場の柵に顔を押しあてて、二人の騎士が槍と斧と剣で殺し合うようすが、まざまざと見えてくる。 ストーリーの焦点に立つのは美しいマルグリット。自分に辱めを加えた狼藉者を絶対に許さない。「沈黙を破れば醜聞とさまざまな危険に襲われる」と承知で、敢然と行動を起こした女性。この時代にあって、自らを貫いた稀有な精神が死闘の砂埃のかたなに、まぶしく輝く。 ジャンヌ・ダルクより、凄いかも。		

読者投稿欄

ペンネーム お勧め度	コメント			
	読んだ場所	読んだページ数（時間）	立ち読みポイント	投稿時間
Mikey ☆☆	サンソンを読んだときも思ったけど、中世の人は血生臭いものを好きすぎると思います。正直信じられないです。 決闘裁判自体は現代ではあり得ない発想だけど、後腐れなくていいかもしれないねー。			
	全部	277P (120分)		2010/02/14 21:32:53
あ、あめふと2号 ☆☆☆☆☆	決闘裁判なんていう裁判の存在自体知らなかったし、 裁判で判決がつかなかったときに決闘で判決をつけるという無茶さがたまらない。 自分もこの時代の人だったら好奇心むき出しで見に行ったら違いない。			
	全部	277P (140分)		2010/01/24 06:15:09
アルフ ☆☆☆	中世ヨーロッパではこんな考え方してるんだというのが分かります。 でも、主人公に感情移入しにくく歴史ミステリーとしては楽しめなかった。			
	全部	277P (120分)	228-255	2010/01/19 01:28:51
アメフト3号 ☆☆☆☆☆	中世ヨーロッパの裁判は、認められれば最終的に決闘で発言の真偽を決定できるという、決闘裁判制度。 裁判制度の煩わしさと、カルージュの信念のすごさが伝わってくる1冊です。			
	全部	277P (120分)	全部	2009/12/26 15:42:00

NIKI ☆☆☆☆	今とは違い女性の立場が強くない時代に、心と体につけられた深い傷のために、自分と夫の両方が死ぬかもしれない決闘裁判を決して引かなかったマルグリッドの強さに惹かれた。決闘裁判は闘って勝った方が正しく、もし悪者が勝った時には逆の正義のために戦った人物が殺された上でさらに、さらしものにされるといふ、恐ろしいもので、昔はこんな矛盾した事が行われていたという事実に驚愕した。 この本ではきちんと正義が通されたので安心して読めた。昔はこんな裁判が行われていた、という事では読んでみるのもいいと思う。			
	86-176, 200-255	147P (120分)		2009/12/01 23:15:02

march ☆☆☆	中世フランスではこんなことが行われたんだなー、という一面がわかった。決闘までの背景と決闘のところを読んだけど、実際は実際の審理のところを読んだ方がいいような気がした。最初の方は話がいろんなところに飛んでわかりにくかったけど、一度読んでみるといい本かも。			
	1-147,228-255	175P (120分)	148-177	2009/11/10 12:00:24

[TOP](#) ^



図書一覧

書籍紹介

読者投稿欄

プロフィール一覧

自己プロフィール

掲示板

死刑執行人サンソン

著者名	安達正勝	発行年	2003年
出版社名	集英社	ページ数	237ページ
値段	700円	ISBN	978-4087202212
コメント	仕事として人を殺す。その不条理をプロフェッショナルとしての誇りを以て乗り越えていった、たくましき家系の男たちの肖像が、じつにいきいきと提供され、ギロチン華やかなフランス革命の奔騰のまっただなかに首根っ子ごと巻き込まれる。		

読者投稿欄

ペンネーム お勧め度	コメント			
	読んだ場所	読んだページ数（時間）	立ち読みポイント	投稿時間
NIKI ☆☆☆☆☆	夜中に読んだら怖くて眠れなくなった。でも昔の人が、人が殺されるのをみるのを娯楽にしている人がいたという事実、恐怖政治で2700もの命がギロチンにより落とされた過去は何度聞いても今の時代に生きる私達にはわからないと思う。そんな中で、死刑執行人という仕事をして殺したくないのに殺さなければいけない葛藤、偏見や差別を受けながら伝統を守ろうとしたり、その感情がとてもリアルに伝わってきて読んでいてグロいし怖かったけど面白かった。特にルイ16世はベルばらを読んでいたので知っているが、そのルイ16世の首を最後にはねたのがこのサンソンであり、また別の立場からこの革命をみる事ができたのは興味深かった。死刑制度の廃止をいつか夢見て亡くなったサンソン、そして現在フランスでは死刑は廃止になっていて、今やっとゆっくり眠れているのではないだろうか。			
	全部	237P (190分)		2010/02/15 01:04:00
Mikey ☆☆☆☆☆	読みやすい。 死刑執行人たちがちょっと美化されてるんじゃないかとも思ったけど、なんていうか考えさせられるいい本でした。 ギロチン開発以降の話が切ないです。 ジョジョの副読本というコメントに同意！			
	全部	237P (120分)		2010/02/14 21:28:24
#30 ☆☆☆	なんで死刑執行人はそんなに嫌われるんだろうとは思った。 人間というものはなんて流されやすくて愚かな存在なんだろうと。 まあ、自分が死刑執行をしろって言われたら嫌だけど。			
	序章	38P (30分)		2010/02/14 10:40:15
	死刑執行人という職業があったことをはじめて知った。死刑執行人が死刑に対してどのように感じ			

Caporal ☆☆☆	ているかを思えば、よくもそんな根性あるなコイツら、と感心した。あと死刑の方法がひどすぎてきついです。			
	全部	273P (200分)	ギロチン開発のところ	2010/02/14 03:38:43
名無し ☆☆☆☆	革命の話よりも死刑執行人という存在自体に興味があったので読んでみた。忌み嫌われているけど、普通に生活している人より倫理的な考え方がしっかりしてんじゃないかと感じた。具体的な生活が見えるので、おもしろかった。			
	全部	237P (180分)		2010/02/11 03:31:40
BLUE BLOOD ☆☆☆☆☆	ルイ16世の時代なので、時代背景は古臭く感じるところもあるが、三章「人を処刑するとはどういうことか」など、現代にも通じるテーマがある。ぜひ読みたい一冊。			
	全部	237P (160分)	143-176	2010/01/30 18:43:31
アメフト3号 ☆☆☆☆	死刑執行人という仕事が、どういうものなのか、社会的にどんなに軽蔑視されていたのか、そんなことは何となくは知っているつもりだったが、実際にこの本を読むと壮絶なものであることがわかる。 ギロチン開発の経緯とか書いてある所があって、そこも面白かった。			
	全部	237P (200分)	特になし	2010/01/20 11:18:17
ムーディーかまやつ ☆☆☆☆	最初の方とかは時間軸的にトリッキーな書き方がしてあったり、面倒くさいなぁと思っていました。が、結局正確さなんてものは要らず、バサバサと流し読みすればいいのだと分かってからは早いです。ページ稼ぎに最適でしょう。 さて、コレを現代に持ち帰って現行死刑制度を考えようとなると、なかなか難易度が上がる気がします。書いてあること・ないことを頑張って読み解かねばならないでしょう。現代日本人が考える“極悪人”みたいな人たちって処刑されてないなぁ、とか。そのへんは作者が注意深く書いているので、単なる死刑廃止論者の本になってないあたりが味わい深いです。 というジョジョの副読書。			
	全部	237P (100分)		2010/01/05 17:34:43
まじ ☆☆☆☆☆	みんなに一度読んでほしいと思える名著です。 死刑制度と職に就くということについて深く考えさせられた。 死刑制度に刑を受ける側がいるように刑を執行する側がいて当然なのだが、それを今まで考えてなかった自分の視野の狭さが情けないと感じた。 また、人は心身共に充実した20〜60才の期間に社会で働くわけで、その長い時間を充実して働くためには自分の職業に対して自分なりの正義を見出さないととてもじゃないが続かない、たとえ自分なりの正義なしに続いたとしてもそれは充実した人生を送れていないだろうと感じた。 働くことに恐怖を感じたことは今の自分には幸せなことだと思います。			
	全部	237P (240分)		2009/12/26 01:38:04
ざわ ☆☆☆☆☆	自分は本当に死刑制度に関して、安易な考えを持っていたのだな、と反省しました。死刑される人だけではなく、死刑を執行する人についても考えるべきことだと初めて気付きました。そして、現在でも死刑制度の廃止の是非を未だに問いていることが残念に思います。私の死刑制度についての考えが大きく変わった1冊です。			
	全部	237P (240分)		2009/12/11 22:42:25
PO ☆☆☆☆☆	ハラハラハラハラドキドキドキドキ おもしろいです！			
	全部	237P (120分)		2009/12/07 23:48:53

くま ☆☆☆☆☆	「死刑」について色々考えながら読みました。シャルル-アンリ・サンソンの国王ルイ十六世を死刑するところを読んで、嫌な汗が出てきました。あんなにも慕っていた人を死刑するところの苦悩がよく伝わる本です。皆さんのお勧め度が高く、私も読んでみて、確かに考えさせられるし、興味深いことでしたので、読んでいない方にも是非読んでみていただきたいです。（ただし時間はかかります。） 裁判員裁判が日本でも行われるようになり、私たちが司法に関心を持たざるをえない時代となっています。批判する人もいるけれども、国が定めたということは、私たち国民が決めたというのとはほぼ同じことです。だからこそ、私たちは少しでも司法に関する知識、及びこれまでの裁判について、さらには「死刑制度」についても考えていかねばならないでしょう。 確かに私たち一般人は法律には素人同然かも知れませんが、でも、裁判員に選らばるかもしれないのです。そのとき、簡単に「非情な極悪人」だからといって、「死刑」を求めてもよいのでしょうか？ 「死刑」、それがいかほどなのか想像しがたいのですが、この本は「死刑を執行」する人の視点から書かれており、死刑について教えてくれます。（それは皆さんのコメントからもわかります。）終章の最後で語られるサンソンの叫びが、とても強く印象に残りました。 -死刑制度は間違っている-			
	all	237P (240分)	後半	2009/11/29 21:23:46
アルフ ☆☆☆☆☆	ギロチンは迅速かつ確実だから人道的なものとして生み出された。 でも一旦それを権力者がもたらしたその性質から死刑が止まらなくなる。なんという皮肉だろう。現在の日本でも死刑がある以上、刑を執行している人はいる。 そんなこと考えたこともなかったなあ。			
	全部	237P (100分)	178-217	2009/11/16 23:46:42
ぶりぶり ☆☆☆☆☆	6代にわたってムッシュ・ド・パリを務め上げたサンソン家の初代当主が死刑執行人という職に就いたのは恋が原因だったという話で人間らしさが感じられホッとした。 93-102ページではギロチンに関わる皮肉な運命の物語があり、結構グロテスクな話だが興味深かった。 最後のほうの、死刑制度は間違っているに始まる件はとても重かった。死刑について改めて考えてみるきっかけになった。			
	1-241	241P (130分)	93-102ページ	2009/11/09 22:14:05
えむぼま ☆☆☆☆☆	民衆は虐殺はできるが、死刑執行はできないという言葉がとても印象的であった。これは、死刑執行人という仕事の苦痛さが感じ取れるとともに、サンソン自身の苦悩と葛藤をも感じ取れることができた。 死刑執行人が医者ともなり人の命を救いそのことを心の支えにして生きていたことから、人間という生き物は非情にはなりきれない生き物なのだと感じた。			
	全部	237P (200分)	191-199	2009/11/07 14:38:10
@ ☆☆☆☆☆	この講義でこの本を読む機会を与えられ、そしてこの本を読まない限り、きっと私は、サンソンのことを知らずに一生を終えたかもしれない。出会ってよかったと思わせてくれる本の一つ。 本当に私はこれを読むまでこの人のことを全く知らなかった。 フランス革命下の死刑執行人が、「一族」であることにまず衝撃を受けた。実際、この事実が、先祖・子孫への思いが、サンソンを苦しめた場面もたくさん見られた。 ギロチンのできた理由・その皮肉さ、処刑方法のエグさ(エグいのがダメな人は94-102ページは避けたほうがいいかも)など、衝撃的なことは枚挙に暇がない。 その中でも私が一番衝撃的だったのは、立ち読みポイントに挙げた、素人が死刑を執行するシーン。これを読むとサンソンがいかに強い人だということ、あるいはそうならざるを得なかったのだということがよくわかる。 今の日本では、誰が死刑執行人であるかなんてわからない。もしわかったら、私たちは彼を敬遠す			

	るだろうか…？			
	全部	237P (200分)	151-155ページ	2009/11/05 23:18:02
hana ☆☆☆☆	民衆は、処刑人をひどく差別しながらも、処刑の様を大衆娯楽のように傍観し、ときには盛り上がる。そんな中、処刑台で人を殺すという重荷を一人で背負い、苦悶しながらも、たくましく生き抜いていった処刑人サンソン。 彼の生涯からは、世界史で習った「ルイ十六世処刑」の言葉の裏に広がっていた意外な事実や、思わず目を覆ってしまうような残酷な処刑方法など、さまざまな現実をつきつけられます。 死刑制度を考えるにあたって、新しい知見を与えてくれる本だと思います。			
	全部	237P (170分)	85-163	2009/10/31 13:46:45
trick ☆☆☆☆	序盤での驚きは、サンソンの家系が死刑執行人になったいきさつの中で語られる、とある死刑執行人の親方の話。怒り狂った親方は実の娘に本物の拷問器具を使いだす。 「間違っ人殺しの娘と結婚してしまわないように」と自宅に娘がいるということを看板で掲示しなければいけなかった死刑執行人たちは何を思うのか。この親方も物語の主人公のひとりだと思う。			
	all	237P (180分)	85～	2009/10/30 15:32:14
とんべい ☆☆☆☆	民族や宗教によって感受性やものの考え方は違うとは思っていたけど、まさかここまで違うとは…ローマ帝国時代にもコロッセオで囚人同士を戦わせて、大衆娯楽にしていたというのを聞いたことがある気がしたけど、この時代の処刑方法 特に八つ裂きの刑などは僕ら日本人には到底理解できないものに見える。 本文にもあったが、人々を人道的に処刑するために作られたギロチンがより多くの人を殺すことになるのは皮肉だと思った。			
	序章(8-46)、68-136	108P (120分)	120-136	2009/10/29 16:11:06
Whatever ☆☆☆☆☆	かつて「ムッシュ・ド・パリ」と呼ばれた世襲制の死刑執行人たち。18世紀フランス革命の処刑台の上、コンコルド広場を埋め尽くした民衆の怒号と狂気に囲まれながら、彼らは何を守ろうとしたのか。王家への忠誠と背徳心とに振り回され続けてきた男が、ルイ16世にギロチンを落とすクライマックスまで、革命の足音と共に話は進んでいく。 読み応えは充分。この時代に写真や、映像がなく良かった気がする。それ程までに処刑方法等、受け入れ難い部分が多かった。「歴史」という言葉で蓋をしてしまう位がちょうどいい気がしてしまう数世紀前の現実。そんな蓋を勢よく開けてしまう人物伝。 現代の死刑制度についても考えさせられる一冊。おすすめです。			
	全部	237P (240分)		2009/10/23 23:17:36
リリー・アリゾナ ☆☆☆☆	無益な苦痛を死刑囚に与えないようにするため生み出されたギロチンが、結果的により多くの人々を死に至らしめたというのはとても皮肉な話であると思った。 尊敬していたルイ16世までも処刑してしまったサンソンの心の動揺が生々しく表現されていたので、読んでいるこちらまで陰鬱な気分になった。			
	全部	237P (200分)		2009/10/15 08:43:27
ソロコフ ☆☆☆☆	ギロチンの誕生の話は驚くばかりである。しかし確かに納得する部分もある。物事の見え方、捉え方は見る者の立場によって全然違うものなのだなあと思った。			
	全部	237P (240分)	41-45ページ,85-136ページ	2009/10/14 22:51:32
	フランス革命以前の身分格差。誰もが被害者なのかもしれない。 あのルイ16世だって、「パンがなければお菓子を食えばいいのに」のあのマリーアントワネット			

フィクサー
☆☆☆☆☆

の夫、だから「悪」。それだけのイメージだったけれど、この本を読むと、一概にはそう言えなくなります。革命や王朝交代で「前の王朝はこんな風でとてもひどかった」と書かれても、あくまで革命を起こした側の残した記録が大半だから、実際はわからないというのもあると思います。死刑執行人も国王も、逃れられない呪縛のなかで懸命に生きていたんだなと感じます。それと、ギロチンがはじめどのような理由から発明されたのか書いてあるのですが、これには驚かれると思います。また、フランス革命とともにその処刑道具が変わっていくところも読んでほしいです。内容の割にどんどん進められる読みやすさもいいです。

全部

237P (200分)

85-136ページ、194-199ページ

2009/10/08 00:59:05

[TOP](#) ^



- 図書一覧
- 書籍紹介
- 読者投稿欄
- プロフィール一覧
- 自己プロフィール
- 掲示板

フランス反骨奇人列伝

著者名	安達正勝	発行年	2006年
出版社名	集英社新書	ページ数	205ページ
値段	735円	ISBN	978-4087203370
コメント	昨年のサンソン人気にあやかってセレクト。革命期を生きた4名のいずれ劣らぬ気骨びと。太陽王ルイに、あるいはナポレオンに抗して敢然と己を枉げなかったところが、惚れ惚れと潔い。 とりわけ死刑執行人「大サンソン」の孫の懊悩のくだりは、しっかり作者の共感に乗っていて、ぐっと胸に迫ります。		

読者投稿欄

ペンネーム お勧め度	コメント			
	読んだ場所	読んだページ数（時間）	立ち読みポイント	投稿時間
ten ☆☆☆	普通に読み物として楽しめました。こういう読みやすい歴史物は好きです。 タイトルはやや大げさにも見えますが、それは今の感覚から見ればの話で。当時の人々の心境は知りませんが、やはりその時代における彼らはまったく「奇人」だったのだろーと思います。 それぞれ違う人物を描いた4章立ての本なので、興味の湧いた人の部分だけを読むのがいいかも。			
	全部	205P (110分)	あえての3章	2010/02/15 02:59:12
だいすけもん ☆☆☆☆	モンテスパン侯爵について書かれた、一章が特に面白かったです。 モンテスパン侯爵の変人ぶりもさることながら、当時のフランスがどういうものだったのかに非常に興味がもてました。 俺もいつか公的寵姫もてるかな。。。。			
	10-38、154-214	90P (100分)	一章	2010/02/14 09:25:47
gpx ☆☆☆☆	死刑制度廃止問題はよく議論されるが、死刑執行人の精神的な圧迫という観点というのはあまり聞いたことがなかったので斬新でした。			
	154-214	61P (120分)	177-179	2010/02/13 07:27:50
BLUE BLOOD ☆☆☆☆	著者とふらんすつながりで、サンソン読んだ人はこちらも読んでおくとお得です。			
	154-214	60P (30分)	4章	2010/01/30 22:09:14
	死刑執行人サンソンを読んだので関連する4章のみ読んでみた。			

trick ☆☆☆	サンソンの帯に漫画家荒木飛呂彦がコメントしていたりタイトルが似ていたり「変人偏屈列伝」という荒木の作品を彷彿とさせられたが本書の4章を読んだ限りでは特に面白おかしい話もなかった。 確かに鬼気迫るというか心にくるものはあるが奇人変人っていうか普通に「ええ話」 執行人サンソンのあとに読むと内容がつながって納得がいくのだが驚きは減る、そんな感じ。			
	154-214	60P (50分)		2010/01/27 02:09:46
えむぼま ☆☆☆☆☆	死刑執行人サンソンの続きの話でとても楽しめて読めた。 六代目は先祖の意思をきちんと受け継いだのだろうか？仕事の面では受け継いでいないが、魂は受け継いでいたと思う。ぐうたら野郎であったが晩年の先祖の回顧録を出版するまでの心意気は見事であると思った。 しかし、家計が苦しくなったとき「そうだ！ギロチンを売ろう」と思い付いて売ってしまった馬鹿さには思わずわらってしまった。			
	153-217	55P (50分)	202	2010/01/19 00:23:26
M I A ! ☆☆☆	そこまで変人ではないと思います。 サンソン6代目が、死刑施行人という宿命に立ち向かい、差別される理不尽さに苦悩するところは人間として当然の感情だと思った。			
	第1章(1-38) 第4章(154-192)	77P (60分)		2009/12/25 23:22:56
ざわ ☆☆☆	勧められたので4章のサンソンのページだけ読みました。 4章しか読んでいないのですが、6代目のサンソンは決して反骨でも奇人でもないと思いました。 確かに家門の名折れかもしれませんが、それまでの代々のサンソン家の人々が本当に我慢強く、そのように続いていたら、サンソン家の苦しみはまだまだ続いていたと思います。6代目サンソンは人間の弱さをあらわにした、そういう意味で人間らしい人物だったのかもしれませんが。 このように処刑執行人について、私達が知ることができたのはサンソン家回想録をまとめた6代目サンソンのおかげであり、その仕事は素晴らしいと思います。			
	155-214ページ	60P (60分)		2009/12/22 12:50:08
アルフ ☆☆	サムソンが面白かったので読んでみました。 でも、期待通りではなかったかなあ。 みんな奇人なのは今の世の中には同じような人はいそうでそこまで突飛でもなかった。			
	全部	205P (180分)	39-81	2009/12/22 03:23:45
ねりな ☆☆	一章につき一人、計四人の反骨奇人が描かれていて、私は第四章の六代目サンソンだけ読みました。 「反骨」とありますが、死刑制度という、社会の仕組みの一部分に対しての反発ということなのでしょう。死刑執行人の家に生まれてしまった→自分も継がなきゃ父親の面子が立たない→でもどうしても死刑執行に慣れない→一時期は放蕩生活→最後に『サンソン家回顧録』執筆→先祖は自分よりも過酷な境遇にあった事を知る、という流れ。 死刑執行人という特異な立場から、死刑制度を具体的・論理的に、批判するようなものがあつたら良かったのかなと思いました。			
	154-214	61P (80分)		2009/11/10 10:07:40
@ ☆☆☆	時代を動かすのは常に「奇人」。なぜなら時代が変わるということは、それまでには考えられなかった新しいことが起こることだから。 なので、この本に出てくる人たちのレベルは、全然「奇人」でも「反骨」でもないです。「ちょっと変な人」くらいです。			
	正直☆1つにしたかったけれど、3つにしたのは、第4章があつたので。「死刑執行人サンソン」を			

読んでから読むのがお勧めです。
というより、「サンソン」を読んだ人は、ぜひこれも読んでほしい。2つで1つの話のような感じがしてくるはず…！

全部	205P (120分)	第4章	2009/11/06 20:35:00
----	-------------	-----	---------------------

フィクサー
☆☆☆

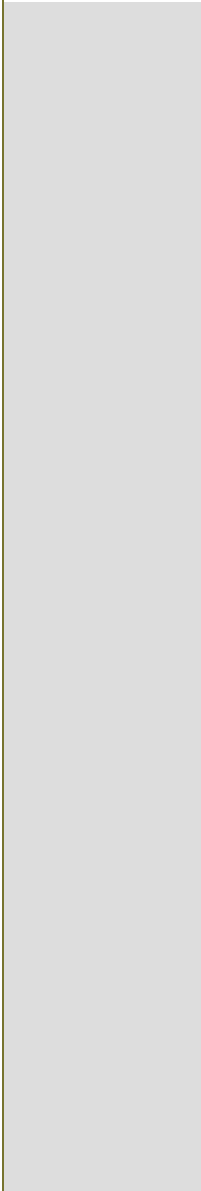
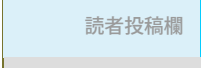
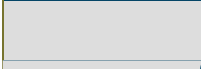
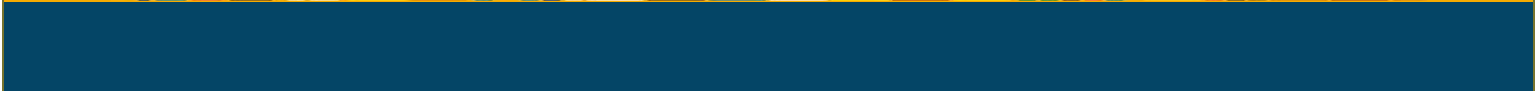
二つの章を読みその二人の人物に共通して感じたのは、甘っちょろさ。でも時にいじらしさを感じさせて人間らしい人物たちだと思いました。自分だけかも知れませんがタイトルやまえがきから想像していた人物像とはだいぶ違う気がしました。

第三章のラスネールは、序盤はまさに「変人」という印象を受けましたが、彼が犯罪に手を染めた理由やその犯罪の内容を読むと、ただの甘ったれだと感じます。優れた才能を持っていたと思いますし、境遇も良くなく運も悪かったとは思いますが、結局犯罪に手を染めてでしか脚光を浴びることができない程度の人だったのだと思います。反骨変人の「反骨」精神があったのか、疑問が残りました。

第四章は「死刑執行人サンソン」を読んでから読むとより楽しめると思います。六代目当主のだらしなさ、歴代当主のなかでも落ちこぼれな感のある、でも歴代当主の中で人間臭さを最も感じさせるサンソンを見ることができると思います。

3-8ページ、81-217 ページ	143P (120分)	82-151ページ	2009/10/11 03:03:24
----------------------	-------------	-----------	---------------------

[TOP](#)へ



怖い絵 1・2・3

著者名	中野京子	発行年	2007年
出版社名	朝日出版社	ページ数	720ページ
値段	1,800円	ISBN	978-4255003993
コメント	絵は怖い。画家の辛辣な筆が、人の体の醜さを、人の心の卑しさを、これでもかと暴き出してしまうから。 絵は怖い。人の醜さや卑しさをぞんぶんに暴き出した返す「絵筆」で、その絵を描いた画家自身の心に潜む憎悪や偏見をも、容赦なく暴き出してしまうから。 好評につき続編もリリースされたばかり。本編では、ムンク、ゴヤ、ダヴィッドの「マリー・アントワネット」にラ・トゥールの「いかさま師」が、とりわけ怖い。続編では、ブリュゲル「ベツレヘムの幼児虐殺」、サロメ、そして、ミスター・アルノルフィニの爬虫類の眼。 ばらばらめくって、気になった絵のところから中野流のホラー・ワールドへGO!		



ペンネーム お勤め度	コメント			
	読んだ場所	読んだページ数（時間）	立ち読みポイント	投稿時間

ten ☆☆☆	普通に絵をばらばら見ながら楽しんでしまいました。 「怖い」部分はまあ、背景説明によってその絵に対する興味が更に湧く感じでしょうか。特に「ぞわぁ」とはなれませんでした。自分の知識が浅いせいだろうか…。			
	8-56	48P (20分)		2010/02/15 04:36:08

Got's ☆☆☆☆☆	これも濫読には適した本ですね。 ただ「怖い」絵の意味はいまいち……。もっとこの絵にはこんな怖いメッセージが隠れているんですよ！みたいな都市伝説のような内容かと思ってました。 じぶんがよく知ってる絵、直接見た事のある絵のみ見てみました。 特に作品9の「聖家族」はとても素晴らしい絵だったので、ぜひフィレンツェに行くことがあれば、ウフィッツ美術館に立ち寄ってみてください。(というか、この「聖家族」があった部屋の作品はどれもすばらしかったですよ。) ただ、こういう			
	作品 1、3、5、8、9、13	74P (60分)	自分の知ってる絵	2010/02/15 01:21:05

くらしく ☆☆	あからさまに猟奇的な絵とかが出てきてしょんぼり。そういうのを求めているんじゃない。 バレリーナの絵とかの絵だけでは分かりづらい時代背景が面白いのだが、それも少し掘り下げが浅い気がした。 もっと深く、心底怖い絵があれば見てみたい。			

	1-162ページ	162P (180分)	特になし	2010/02/10 21:03:00
名無し ☆☆☆☆	怖いというより面白かった。いまいち絵の見方は分からなかったのだが、これを読むとつくづく絵画鑑賞とは「奥が深いな」と思う。 でもここまでになるのってかなりその時代とか画家とかについて詳しくなきゃ無理なんじゃ…。私は二番煎じでいいです。			
	1巻1-236／2巻1-70	306P (180分)	自分が気になった絵のどこ	2010/02/04 03:32:44
TD ☆☆☆☆☆	絵というのは眺めるだけでなく、その裏にある物語を自分の頭の中で妄想するのが本当の楽しみ方のようだ。そのためには、その絵が描かれた時代背景や、描かれている象徴の意味を理解しておく必要があり、絵画鑑賞というのはとても高尚な趣味なんだなと思った。			
	0-56 82-105 118-138	99P (60分)	18-29 82-92	2010/02/01 22:27:28
アメフト4号 ☆☆	名画と呼ばれるものには見る人の教養がないといけないのかと思った。			
	1-54	54P (60分)		2010/01/29 22:56:52
jessy ☆☆☆☆	美術館に行ってもこの絵が何を表しているのか、何がすばらしいのか、私には分からない。。。みたいなのがしょっちゅうなので、この本はいい！！ 今は美術館に行くことに楽しさを感じていないにもかかわらず、休日に1人で美術館に行くなんてちょっとカッコいいなwって憧れてる私にぴったりかも。			
	6-79	72P (60分)	どこでも	2010/01/27 09:23:09
りょへ ☆☆☆☆☆	怖い絵なのか…？ 普通に美術館行く時の予備知識として持っていると考えると読むとワクワクしながらこの本を読み終えるんじゃないかと思われます。彼女との美術館デートする前には必ずこれを読んで、my honeyをより惹きつけましょう。			
	いろいろ	450P (480分)		2010/01/27 02:36:55
PO ☆☆☆☆	以前読んだがコメント書いてなかったので… 怖くはないが、おもしろい視点から絵画を解説しているので楽しめた。 これで20冊目なのでもうしばらく本は読まないだろうが、もし、万が一、読む機会があったら2、3巻も読んでみたい。			
	1巻全部	240P (150分)		2010/01/26 01:43:46
アメフト3号 ☆☆☆☆	それぞれの絵に対して、裏のエピソードが書かれていて、面白い。特に、それが知っている絵であればなおさらだ。エッシャーの滝は、美術の本にも出てくる有名なもの。 最初の解剖の絵のエピソードも、なかなか興味深かった。			
	8-56	48P (20分)	特になし	2010/01/22 23:08:29
	色々な絵のあらゆる意味での『怖さ』が語られている。			

うろくた ☆☆☆	・美しさの影に潜む、無知が生んだ『怖さ』 ・血に塗れた、“わかりやすい”『怖さ』 ・色が連想させる『怖さ』 肌に突き刺さるような、感性で味わう怖さと、知ってしまうと夜も眠れないような知性で味わう怖さ、身を持って体験していただきたい。 (ただ、正直説明が長くて冗長。なので星3つ。もっとインパクト強くユーモラスに語って欲しかった。本の趣旨が僕の想像と違っただけかもしれないが)			
	20p～. 105p～	60P (20分)	20p,104p	2010/01/21 15:17:28
harry ☆☆	怖さよりユーモアを感じてしまう私の感覚はおかしいのだろうか。 ピカソはやはり偉大。			
	18～29、他は絵のところのみ	64P (15分)		2010/01/14 12:13:40
iwatobi-penguin ☆☆	僕としてはイマイチという言葉です。絵がたいして怖くない。もっと怖い絵はコンビニの立ち読みの本でもみられます。わざわざこの本を読む必要性を感じられなかった。			
	1-54	54P (60分)		2010/01/11 20:38:16
BLUE BLOOD ☆☆☆	怖いって何なんだと思ったけど、知っている絵や実物を見たことがあるものもあってそれほどでもありませんでした。			
	一巻	236P (140分)	1 0 - 6 6	2009/12/15 12:36:19
#30 ☆☆	好きな絵に関しての理解を深めるという意味では面白かった。 ただ、どのような時代背景や状況で描かれたのかが分ったところで、どの辺が怖いのかよくわからないが。			
	2巻6-17 44-56	23P (30分)		2009/12/07 15:14:38
トム ☆☆	この絵のどこが怖いんだろう、という絵の方が多かった。 一見、何気ない絵も、その時代背景や描き手の意図を理解すると、違って見えるのだそう。 ただ絵の美しさを楽しむだけでなく、絵に対する知識があった方が何倍も面白くなる、と改めて感じさせられた。			
	一巻6-20, 36-43, 130-150	51P (30分)	36-43	2009/11/30 01:19:09
肉 ☆☆☆	正直あまり知っている絵がなかったのが残念,,, (自分の知識不足もあるが,,) 「怖い絵」というタイトルだが、内容的にもうちょっとインパクトのあるものが良かった。「え～！」というより「へ～」って感じでした。 でも1つ1つの絵の解説がコンパクトにまとまっていたので、読みやすかった。			
	1 巻全部	236P (100分)		2009/11/14 11:00:31

ぶるー ☆☆	普段さらっと見てしまう絵画、いろんな見方があったんですね。 解説を読みながら絵を見て、また読んで絵を見て・・・の繰り返し。 でもちょっと怖かった。と言うか少し気持ち悪くなりました。 怖いものが大丈夫で絵が好きなお人にお勧めです。			
	3巻 最初-P69	69P (90分)	バラバラめくって 絵を見て選ぶ と・・・	2009/11/10 22:44:37
ぶりぶり ☆☆☆☆	作品を載せてそれについての解説を綴ってある。怖いというよりも西洋美術に対する知識が深まる1冊。 最初のドガの作品「エトワール、または舞台の踊り子」。少女が優雅にバレエを舞い、周りにはバレエを愛する紳士淑女がにこやかに鑑賞しているのだらうと思うと、どうやら全然違うという話。一度読んでみる価値あり。			
	10-66 114-126 140-175	106P (80分)	10-21	2009/11/04 12:28:13
Caporal ☆☆☆	なぜか3巻から読み始めてさかのぼっていく形となった。たぶん1巻も読むと思う。 中世の生々しい歴史が語られるので読んでると気分があまりよくならないものであったが、怖いものみたさでばらばらとめくっていった。あとはなんで当時みんなデブ専なんだろうって思わせられる。			
	1`56 (3巻)、全部 (2巻)	302P (238分)	ヴィーナスの誕生	2009/11/01 17:46:18
trick ☆☆☆	まず絵描き向きの本ではない。「怖い話するよ」という話を頭のどこかで嘘だろうと思いつつも全力で楽しめる人向きな気がする。なので僕は俯瞰してしまってあんまり楽しめなかったです。 あと…この価格帯なら絵はフルカラーにしようよ！是非！ 個人的には自分の描いた絵で怖い話でつち上げてみてほしいなあ			
	1巻 42-66 82-112 142-165 236-244	88P (105分)		2009/10/30 15:58:55
まじ ☆☆☆☆	それぞれの絵に解説が10ページほど載っている。絵を見ることだけによって得られる怖さなんてものは漠然としたものに過ぎず、絵の時代的背景を理解しないと見えてこない怖さを教えてくれる。 怖い怖くないは別として、絵の奥深さに目を向けて鑑賞することの楽しさを感じられてよかった。			
	1巻の 1～54、68～88、102～126、152～245	194P (250分)		2009/10/27 08:39:29
ねりな ☆☆☆	気になった絵の章だけ読みました。ぱっと見て興味がない絵の説明は敬遠してしまいました。 絵の、説明を聞いて「理解する」怖さと、絵を見て「感じる」怖さは別物なのだなあ。どちらが良いというわけではなく。			
	2巻 6-29,44-69,140-150,162-184	84P (60分)		2009/10/23 08:19:28
puzdog ☆☆☆	ばらばらと見て、目にとまった絵を一分間鑑賞し、解説を見ると楽しい。 電車で読むときは周囲に気をつけて読みましょう。1巻の2つ目の絵とか…。			
	1巻の1～7、9、10、14、17、20の絵	135P (120分)		2009/10/20 18:57:39
びよ彦	それぞれの絵に解説があり、その絵がどう怖いのかわかりやすく説明がされているので、素人でも楽しめるし、美術鑑賞の際の参考にもなる。ただし、中には「それはこじつけだろ」としか思えないような著者の推理もあるので、あくまでも参考に留めとくべき。 個人的に怖いと思うのはカレーニョ・デ・ミランダ作の「カルロス二世」。全体的に暗い画面の中央に			

☆☆☆☆	描かれた、青白い、劣化版キューピー人形のようなカルロス二世の顔は亡霊のように気味が悪い。			
	2巻 8-150	143P (80分)	58-69	2009/10/15 11:13:00

Whatever ☆☆☆☆	中世ヨーロッパの画家たちが絵に湛えていった、ささいな衝動が 数百年という時間のフィルターを通して、 より黒く、深く、熟成されていく。 「本当は怖い昔話」の類や、都市伝説が好きな人には、なかなか面白いと思います。 絵ごとに内容も独立していますし、ちょっとした時間に読むことができます。			
	1巻58-66,82-88,104-112,130-138,142-150,166-174,236-244,2巻8-17,20-29,46-56,72-80,142-150,176-209,222-246	151P (130分)	8-17,236-246	2009/10/13 03:50:42

フィクサー ☆☆☆	知り合いの絵描きが以前この本を読んだらしく感想を聞いたところ「全然面白くない。くだらない本だ。」と言っていました。おそらくこの本を、絵を絵として楽しみたい、感じたいという人が読んでも「だから何？」となってしまうと思います。なので歴史に興味がある人や、絵を見る理由がどちらかというと美術史的な方面からという人のほうが楽しめる気がします。 著者も言っている通り、「こんな絵の見方もあるのだな」くらいの読み方をするのが一番いいと思います。			
	2巻18-69、106-138、162-209、248、249ページ	135P (70分)	きになった絵のところ	2009/10/11 03:31:08

[TOP](#)へ



- 図書一覧
- 書籍紹介
- 読者投稿欄
- プロフィール一覧
- 自己プロフィール
- 掲示板

ファッションから名画を読む

著者名	深井晃子	発行年	2009年
出版社名	PHP新書	ページ数	271ページ
値段	950円	ISBN	4-569703367
コメント	時代ごとのオシャレさんたち大集合。 どっしりゴージャスな絹のドレスで行くか、さらり自然体の木綿素材か。日傘という小道具だって、バルコニーという場所だって、み〜んなオシャレのたいせつな要素なんです。 理想のミューズに、どの時代で出会えましたか？		

読者投稿欄

ペンネーム お勧め度	コメント			
	読んだ場所	読んだページ数（時間）	立ち読みポイント	投稿時間
Got's ☆☆☆☆	真珠の耳飾りの少女に惹かれて、借りました。絵画の鑑賞は好きだけれども、肖像画などの人間が主題になっている作品というのはあまり得意ではなかった。 でもこの本で、ファッションから絵画をひも解いていくという新しい見かたを知ることができたのは非常に貴重であった。…がそれを活用していくにはあまりにも勉強不足だなあ〜と。。。 ファッションについて調べるより、まずは聖書を読むところから始めます。			
	全部パラパラと	271P (60分)	モナリザ	2010/02/15 02:36:09
Mikey ☆☆☆☆☆	絵が多いし、面白いし、最高です。 コルセットの章しか読んでないけど、シャネルの歴史とかファッションの歴史についての知識を持っているとより一層楽しめると思います。 コルセットで細く見せるのも、ダイエット食品を食べるのも結局は一緒です。 綺麗に見せるために女の人は無理をしてしまうのです。			
	215-242	28P (15分)	読んだとこ	2010/02/14 22:45:35
#30 ☆☆☆	人間みんな姿かたちは同じなわけで、自らの富や地位を資格に訴えるものがファッションであるではないかと。 本書はちょっと頭でっかちに考えすぎな感があったが、絵画は見たままをそのまま受け入れればいいというスタイルの自分には、背景を知って絵画を読むということは新鮮で興味深かった。			
	全部	271P (180分)		2010/02/14 10:51:52
PO ☆☆☆☆	普段と逆の視点で読むのでおもしろいです			
	全部	271P (180分)		2010/01/18 23:25:09

harry ☆☆☆☆	絵画のファンションが時代を反映しているということは少し考えれば思い至るものだが、そのファンションが中心ともなりうるというのは新しい見方だと思った。			
	1-271ページ	271P (240分)	エピローグ	2010/01/04 14:54:08
リリー・アリゾナ ☆☆☆☆	人物画だとどうしても顔の表情に目が行ってしまうが、絵の人物が纏っている服飾にも画家の技量が表れているということに気付かされた。また、服飾は個々の趣味を表すだけでなく、その人物の地位や、歴史背景も大きく関わっていて、調べれば調べるほど面白いものだということを知ることが出来た。 写実主義の時代に書かれた絵画はどれもまるで写真のようで特に服の布の質感の表現などは本当に神がかったと改めて思った。			
	全部	271P (200分)		2009/12/25 01:04:13
march ☆☆☆☆☆	かなり理論的で、嫌いな人は嫌いかも。時代や社会の変化とともにファッションは必然性をもって変わっていき、絵を見るだけでもその背景が見えてきて面白いです。			
	1-271	271P (180分)	99～130	2009/11/06 17:54:48
M I A ! ☆☆☆	モナリザの衣装がなぜ地味であるかなどのは少し面白かったけれども、分析っぽかったので少し読みにくかったです。			
	1-90	90P (40分)		2009/10/31 23:38:55
ぶるー ☆☆☆☆	「絵画の鑑賞は見る人に開かれたものである」 あとがきより 確かにそうだと思う。 それでも普通だったら、この画家のこの雰囲気が好きとかここら辺の色の使い方がいいとかもっと抽象的な見方をしてしまいがちだが、そこでファッションという確かにどの絵にも描かれていてその時代をよく表しているものに注目しているところが斬新だなと感じた。 あまり絵画に興味を持ったことはないが、ファッションという切り口からその時代を読み解いていくそのスタイルが気に入った。 美術館に行ったら是非注目してみようっと！			
	全部	271P (180分)	絵の載っているページの前後	2009/10/20 22:55:14

[TOP](#)へ



図書一覧

書籍紹介

読者投稿欄

プロフィール一覧

自己プロフィール

掲示板

感染地図－歴史を変えた未知の病原体

著者名	スティーヴン・ジョンソン	発行年	2007年
出版社名	河出書房新社	ページ数	261ページ
値段	2,600円	ISBN	978-4309252186
コメント	1854年、ロンドン、コレラ禍。死神は井戸を伝ってやってきた。 いや、悪いのは空気でしょう、という先入観と科学的精神がいかに戦ったか。 私たちは、つい地図を眺めて「上から目線」でできごとをとらえてしまうけれど、現場を這いずりつつ、地図をつくることから始めた戦いの各シーンがスリリング。 歴史上の1エピソードと片付けず、都市なるものが今後どうなるか、著者はしっかり未来へと視線を向けている。		

読者投稿欄

ペンネーム お勧め度	コメント			
	読んだ場所	読んだページ数（時間）	立ち読みポイント	投稿時間
あ、あめふと2号 ☆☆	序章で致死的な最近と、超成長する都市、そして天賦の才をもった二人の男が主役の物語と書いてあったので、面白そうだと思って読み進めたが、こういう物語はあまり好きではなく、すぐギブアップしてしまった。			
	1-26	26P (25分)		2010/02/14 14:35:11
TD ☆	同時に生態系の本を何冊か読んでいたために、「循環」は大切なんだと深く思った。骨や歯がカルシウムの廃棄物からできているのには驚いた。			
	1－18	18P (10分)	1－18	2010/02/13 22:19:32
えむぼま ☆☆☆☆	途中までだが推理小説っぽく解き明かしていく感じが楽しく読めました。 医者が間違った治療法を競って新聞などに載せて、間違った治療法を広めようという知ったかぶり治療ほど医者信じている人々にとって怖いものはないと感じた。 ヨーロッパの人々はコレラで人口が激減したので豚インフルとかあまり脅威に思っていならしい・・・日本との違いに歴史によって今生きる人たちの価値観まで変わることには驚いた。			
	1-65	66P (80分)	なし	2010/02/13 11:33:49
とんべい ☆☆☆☆	エピローグよかったです。話がまとまっててさっくり読めました。 かつて大都市は疫病の格好的だった。しかし今はむしろ都市で暮らすほうが長生きできる。 しかし鳥インフルが人から人へ感染したら、テロ組織が生物化学兵器を使ったら、やはり都市は、いや世界は1918年にもどることだろう。 科学の力で立ち向かおう、というお話かな。			
	エピローグ	27P (40分)	エピローグ	2010/02/12 15:12:24

ざわ ☆☆☆	エピローグしか読んでいないという、かなりの濫読ですが、これからの都市化について、少し学ぶことができました。都市化する利点とともに解決しなければならない問題はたくさんあることがわかります。科学を用いた公共政策の大切さを感じました。		
	239-265	27P (30分)	2009/12/01 09:45:44

hana ☆☆☆☆	すでに広く信じられている考えを後から塗りかえるのは、（たとえそれが正しくても）非常に困難であることが、生々しく語られていました。それは同時に、相当人間臭く主観的だった科学に、極めて理数的で客観的な科学が取って代わった、歴史的瞬間でもありました。都市が抱える問題点、伝染病、微生物、遺伝子についてなど、さまざまな知識を得ることができたのもよかったです。		
	8-18,50-269	229P (170分)	199-225 2009/11/15 15:15:38

アルフ ☆☆☆☆	今から考えると当時のロンドンまさに地獄そのもの。偏見に負けずにその原因を突き止める主人公の姿は感動ものです。でも都市の成立等の説明なども多く、対コレラの物語だけを追いたい人にはちょっと冗長かも。あと全体的に汚物の話なので覚悟してください。		
	全部	261P (150分)	149-221 2009/10/27 01:10:58

Whatever ☆☆☆☆☆	150年前のロンドン、目に見えぬ敵であった未知の微生物に対して、最大の武器となったのは当時まだ確立していなかった社会統計学だった。「原因は空気にある」という社会通念に囚われずに感染経路の解明に挑んだ天才医師と、それを支えた副牧師。これは単にパラダイムシフトに時の天才が挑むという歴史本ではない。当時の最先端科学と地道な地元密着型の聴き込み調査の結合によって初めて謎が明らかになるというエピソードに、社会工学の存在意義を1つ学べたと思う。人類が持つ都市生活という「手段」に言及していったエピローグも、21世紀の国際問題に切り込む新しいアプローチとして読破する価値ありだと思います。		
	8-265	258P (240分)	239-265 2009/10/26 12:14:43

iwatobi-penguin ☆☆☆	最初のほうはちょっと退屈です。タイトルからして病原体のことを主に扱っているかと思ったら、だったら歴史を述べている箇所が多々あります。読む本がなくなったらのんびり読んでみてください		
	9-146	134P (120分)	50-80 2009/10/19 19:32:09

日吉本町四丁目南 ☆☆☆☆	ロンドンで発生したコレラの原因を、国家を頼らずに、一人の麻酔の研究者と一人の牧師が徐々に解き明かしていくところは、実際に現実に起こったミステリーを解いているので、とても素晴らしく、おもしろい。また、疫病の伝染を土木学的見地から見ているところも興味深かったです。最後にある、コレラの伝播を証明するための鳥瞰図の作成の変遷が書かれているところが、個人的に気に入っているけれど、文章のみで書かれていて、少々判りづらく、一緒に地図を載せて欲しかったです。		
	121-237	117P (135分)	182-190 2009/10/12 01:44:51